

# 安心安全なキュウリ栽培を目指して

東近江地域振興局農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

東近江市八日市地域の「共販きゅうり部会」では14戸の生産者が、約3haの温室でキュウリを栽培し京都市場へ8月を除きほぼ周年的に出荷している。

しかし近年、消費者の食の安心安全志向が強まる中、今まで取り組んできた外観や食味などの高品質に加えて、食の安全に向けた取り組みが強く望まれてきている。

そこで、一昨年多発し有効な農薬がないズッキーニ黄斑モザイクウイルス(以下ZYMV)病対策として、新しく開発されたワクチンを苗に予防接種する、農薬に頼らない防除法に取り組んだ。

また京都生協から要望が強いGAPについても、安心安全なキュウリ生産に向けた一環として取り組むことにした。

## 【普及活動の成果】

### ZYMVワクチンの予防接種の取り組み

このワクチンは、平成20年4月に農薬登録されたがまだ販売されていないことから、開発元の京都微生物化学研究所と連携し、ワクチンの提供や接種方法の講習会をお願いして、9戸の部会員が6,500株のワクチン接種に取り組んだ。ワクチン接種は、保毒アブラムシがキュウリに寄生する前に行う必要があり、苗が届く8月4日、5日、11日、18日に行った。

これらの取り組みにより、本年はZYMVの発病は全くなかった。また、ワクチンのキュウリへの感染率は90～100%感染しており、接種技術の習得と合わせて有効な手段であることが分かった。21年度も、ワクチン接種体制について部会で検討を始めている。

表 ワクチンの感染率

接種日	戸数	接種本数	感染率(%)	
			9/10	10/24
8/4	1	680	100	100
8/5	1	900	94	90
8/11	2	1,320	74	100
8/18	5	3,460	78	90



ワクチン接種講習会の様子

### GAPの取り組み

抑制栽培よりGAPの取り組みを開始した。一般的な基礎GAPのチェックリストではなく、今まで取り組んできた生産履歴や作業日誌と一体的な取り組みができるように様式を作成した。記帳については、毎月開催している目合わせ会や全体会の場で、JAや当課で記帳内容を確認している。抑制栽培で取り組んだ結果から、農薬在庫台帳が日々の作業の中で記帳できないことから項目を簡単にしたり、作業日誌に備考欄を大きく取って日々の内容を細かく書けるようにする等の改良を行い、次作の半促成栽培で取り組んでいく。